

仙台みどりと風の会 だより

第3号

2012年1月19日

編集・発行 仙台みどりと風の会

〒982-0011 仙台市太白区長町6丁目13-8-408
Tel・Fax 022-233-4550

年頭にあたって

仙台みどりと風の会 会長 小関忠夫



震災後 初の新年を迎えることができました。

日頃は奥山恵美子市長の後援活動に対しまして、ご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

「仙台みどりと風の会」は、奥山市長の政治団体として平成21年に発足し、選挙活動、政治活動、後援会活動を支える母体として活動をいたしております。そしてもうひとつ、市政の発展と市民生活の向上、会員相互の親睦を目的としております。

昨年、3月11日の東日本大震災後、僅かながら落ち着きを取り戻し始めた10月には、「奥山市長市政報告会」を開催し約160名の方々のご参加があり、仙台市の震災復興計画の中間案について報告を頂きました。

本年は、奥山市長が震災復興計画を進行させる年として強い決意を表明しております。「仙台み

どりと風の会」といたしましても、市民生活・地域経済の再生と発展に向けて努力される奥山市長を支援していきたいと思います。

震災後ということで心配された伝統の仙台初売りも、穏やかな日和に恵まれ、多くの人出でにぎわい「伊達な街仙台」らしさのある年の始めの一步だったと思います。

また、後援会の活動としましては、2013年に行われる次回の仙台市長選挙まで残すところ1年半となりました。後援会としまして今年是非常に重要な年になると考えております。

「仙台みどりと風の会」をより一層発展させるためにも、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願いいたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

仙台みどりと風の会 事務所

〒982-0011
仙台市太白区長町6丁目13-8-408
Tel・Fax 022-233-4550

ホームページをご覧ください!

URL <http://www.okuyama-emiko.net>

街の総合力で、復興への力強い歩みを！

仙台市長 奥山恵美子



昨年3月11日の東日本大震災は、仙台にとっても、まことに未曾有の大災害でございました。生後1か月から96歳まで、700余命の尊い生命が失われ、津波で発生したがれきは、135.2万トン、住宅、宅地等の損壊も、半壊以上で12万3000件余と膨大な数にのぼりました。

そうした輻輳する苦境の中でも、多くの被災された方々が、生活の再建に向けて、渾身のお力を振るって下さったことは、私にとっても、大変に心強く、市長として、この復興への足取りをさらに加速し、確かなものにしていかねばならないと覚悟を新たにしているところです。

遅い、遅いと言われた国の復興予算も、震災から8カ月を過ぎた11月21日に、第3次補正予算が成立し、11月の仙台市議会臨時会で議決をいただいた仙台市復興計画及び12月定例会で成立した市の補正予算と合わせ、ようやく防災集団移転事業や宅地の活動崩落対策事業といった本格的な復旧・復興事業に取り組むための予算と制度ができあがりました。

仙台市復興計画では、復興に向けて10の重点プロジェクトを掲載しておりますが、被害が、甚大で広範であるだけに、具体の事業も相当数にのぼります。復興は、スピードが勝負です。これらの事業を同時並行的に、立ち上げ、着実に実行に移していかなくてはなりません。

そのために、必要な力の第一は、行政の専門スタッフの数です。沿岸部の集団移転、郊外団地の宅地の再建等には、土木・建築・都市計画・道路等の専門職の知見と力が欠かせません。仙台市は、これまでも政令指定都市として、都市計画、開発許可等の業務を市独自で進めてきましたので、一定数の専門職員がおり、震災後の復旧に向けての国等との協議、要望等においても、それは非常に有利に働いたと考えておりますが、実際に事業を立ち上げていくには、個別の相談の受け付け、設計図面等の作成、国等との協議、地元説明会の開催とさらに猫の手も借りたい状況です。民間にお願いできる業務は、発注しつつ、すでに東京都や横浜市、広島市等から、52名の長期の職員派遣をお願いし

ております。定年になった職員の再任用、臨時職員の採用等、さまざまな知恵を絞りながら、人材の確保に努めてまいります。

そして第二には、全国からの支援の力を地元でしっかりと受け止める、受け皿づくりです。今、被災された事業者の方々へ、機械設備等を贈る事業が進んでいますが、これも名古屋の商工会議所のお申し出を、仙台の商工会議所がしっかりとキャッチし、マッチング事業として、立ち上げたことが大きな展開をみたものです。この4か月の間に、合計184台の機械設備が、宮城・岩手・福島沿岸部の被災した事業所に運び込まれ、しっかりと二度目、三度目のお役目を果たしています。

また、かねてから女性の視点を踏まえた防災活動に取り組んできたイコールネット仙台等のメンバーは、避難所を回る中で、自分のサイズに合った下着を入手することが難しい、下着を洗濯したり干したりする場がない、化粧品が乏しいといった声を聞き、それぞれ、企業の協力を得て、下着や化粧品を届けたり、美容部員によるケア活動を展開することができました。このたびの震災では、企業の支援活動が、大変大きな役割を果たしましたが、その活動が、スムーズに地元を受け入れられるためには、潤滑油のような役割を果たす個人、もしくは団体の存在が不可欠です。これからの復興の長い道のりの中でも、さまざまな市民活動のみならず、そうした目には見えない縁の下の力持ちとなって、きめ細かな活動を展開して下さることを期待しております。

全国から、そして世界から寄せられた多くの支援の善意が、この春にかけて、さらに具体的に動き出そうとしています。善意が形となるには、受け手の側にも、善意を受け止め、この地に移植し、根付かせる知恵と時間を惜しまない共同作業への覚悟が必要です。北は青森の八戸から南は茨城、千葉まで、被災地は多くとも、受け止める力を十分に備えている街は、そんなに多くはありません。

仙台は、その貴重な力を持つ都市として、果たすべき役割をしっかりと自覚し、復興の最前線で力を奮ってまいります。